

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月31日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究（C）（一般）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530900

研究課題名（和文）米国における二重単位授与の実態と単位の質保証に関する研究

研究課題名（英文）A Study of Dual Credit Courses and Quality Assurance in U.S. High Schools and Colleges

研究代表者

河合 久 (KAWAI HISASHI)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・総括研究官

研究者番号：30214589

研究成果の概要（和文）：

Dual Enrollment あるいは Concurrent Enrollment は資格要件を満たした高校生が在学中に大学の単位を取得できるようにするプログラムである。

全米教育統計センター（National Center for Education Statistics: NCES）の最新のデータによると Dual enrollment プログラムとして 2010-11 年に大学の単位取得を求めてコースを取った高校生は約 1,277,100 人いた。前回の NCES の 2002-03 年のデータではおよそ 680,000 人であった。

高校の先生が教える大学のコースが大学のキャンパスで提供されるコースと同様の厳格さを保証するために、NACEP が 1999 年に設立された。2013 年 4 月 26 日現在、89 の Concurrent Enrollment パートナーシップが NACEP の認定を受けている。

研究成果の概要（英文）：

Dual- or Concurrent Enrollment is a program that allows qualified high school students to earn college credit while still in high school.

The new data published by the National Center for Education Statistics (NCES) report that the number of U.S. high school students who took courses for college credit within dual enrollment programs during the 2010-11 school year was about 1,277,100. The last time the NCES counted during the 2002-03 school year, the number was approximately 680,000.

In order to ensure college courses taught by high school teachers are as rigorous as courses offered on the college campus, the National Alliance of Concurrent Enrollment Partnerships (NACEP) was established in 1999. As of April 26, 2013, 89 concurrent enrollment partnerships hold NACEP accreditation.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
22年度	1,000,000	0	1,000,000
23年度	1,000,000	0	1,000,000
24年度	1,000,000	0	1,000,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	0	3,000,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：高大接続、二重単位、Dual Credit、Dual Enrollment、コミュニティ・カレッジ、Career Readiness、College Readiness、カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

本研究は、学校段階間の接続、特に高校と大学の接続について米国が進めている Dual Credit (二重単位) 授与制度についてのものである。二重単位とは、高校生に大学レベルの教科コースを学習させることで、高校と大学の単位を同時に与えることであり、Dual Enrollment (二重登録) とか Concurrent Enrollment (並行登録) と呼ばれているプログラムが該当する。州により名称が異なることもあり(例えば、ワシントン州では Running Start、ジョージア州では Joint Enrollment、など)、どのくらいの高校生がこれらのプログラムで二重単位を取得しているかということを知るのは難しい。全米でこれらのプログラムの導入が進んだのはごく最近で、2005 年の全米教育統計センター(The National Center for Education Statistics : NCES) が刊行した Dual Enrollment of High School Students at Postsecondary Institutions: 2002-03 によると、2002-03 年に約 680,000 人の高校生が Dual Enrollment プログラムで大学の単位取得をめざしたコースを受講したとある。その後のいくつかの州の二重単位取得者数のデータを調べると、それらのすべての州で参加者が増えているので、全米では相当の人数になることが推測される。制度化も進み、2005 年には 40 の州が Dual/concurrent Enrollment に関する規則を法令に定めている。

本研究は、高校生に経済的な負担をあまりかけずに大学レベルのコースを高校または近隣のコミュニティ・カレッジ等で受講できるようにして、二重単位を与えているプログラムに焦点をあわせて研究を進めるが、アドバンスト・プレースメント(AP)と国際バカロ

レア(IB)のプログラムも研究対象としている。AP や IB の教科テストで、ある程度以上の成績を収めれば、米国の多くの大学では大学の単位として認めているので、これらも二重単位となり得るプログラムであるからである。また、学校数はそれほど多くはないが Middle College High School とか Early College High School での取り組み、職業教育に重点を置いたテク・プレップ (tech-prep) などのプログラムも研究の範囲である。

二重単位の授与については、学費の負担軽減につながるなどメリットも多いが、その単位の質の面で問題があるという意見もある。大学の単位として認めることが妥当であるか、その判断基準は何かということが重要になる。このことについては基準協会のガイドラインがあるので、それを吟味して、実際にそれを採用している高校やコミュニティ・カレッジ等でどのように運営されているか、また、プログラムを運営していく上でどのようなサポートが必要か等について明らかにする。

高校と大学の接続については、高校の主なパートナーとしてのコミュニティ・カレッジの役割は大きい。地域に根ざした高等教育機関であるコミュニティ・カレッジは、将来の職業への入り口でもあり、4年制の大学への入り口でもある。21世紀の社会では大学レベルの知識と技術が必要とされる職業が急増すると言われるが、これらの知識と技術を身に付けた職業人を育てるコミュニティ・カレッジの取り組みの一つである二重単位の制度を理解することは意味のあることで、我が国での高大接続の在り方の参考になるものと考えられる。

2. 研究の目的

米国の Dual Enrollment とか Concurrent Enrollment と呼ばれるプログラムは、高校生に経済的な負担をあまりかけずに大学レベルのコースを高校または近隣のコミュニティ・カレッジ等で受講できるようにしているものである。高校と大学とが連携協力し、教科内容の基準を定め、その教科を受講した高校生に、高校の単位と大学の単位を同時に与える（二重単位）このプログラムの導入が進んでいるが、メリットもデメリットも指摘されている。研究では、この二重単位制度を導入している各州における動向、二重単位を認めている各教科の内容基準、二重単位制度の運営上の支援体制及び評価等を文献及び訪問調査により調べることで、この二重単位の質をどのように保証しようとしているかを明らかにする。

3. 研究の方法

インターネットを活用して国内外の高大接続に関する情報収集を行うとともに国内調査、海外調査により実態を把握する。入手した重要な海外の資料・文献については翻訳をする。

海外調査では、二重単位プログラムの質を保証するための認定基準を定めている National Alliance of Concurrent Enrollment Partnerships (NACEP) の認定基準を調べる。また、NACEP が毎年主催する全米会議に参加して各州の二重単位プログラムに関する情報を収集し、分析する。

ワシントン州の Running Start、カリフォルニア州とミシガン州の Dual Enrollment について、特に、二重単位の質を保証するためにどのような対策をとっているかに焦点を当て、研究を進める。

4. 研究成果

(1) 参加者（登録者・挑戦者）の増加

全米の学校や大学等を対象にした Dual Enrollment や Dual Credit のプログラムへの参加者数の調査報告が 2013 年に全米教育統計センター (National Center for Education Statistics: NCES) からあった。2005 年の NCES の調査報告と比較することで、この 8 年間におけるこれらのプログラムの米国における普及の実態が明らかになった。

① Dual Enrollment

学位授与資格を有する 2 年制及び 4 年制の大学では、どのくらい Dual Enrollment プログラム（及びコース）を提供し、どのくらいの生徒がそれらに参加しているか、NCES が 2013 年 2 月に発行した資料 (Dual Enrollment Programs and Courses for High School Students at Postsecondary Institutions: 2010-11) が明らかにしている。NCES は同様の調査 (Dual Enrollment of High School Students at Postsecondary Institutions: 2002-03) を 2005 年 4 月に実施しているので、この 2 つの資料を比較することで、この間の Dual Enrollment プログラムの普及の実態が把握できる。

2010-11 年では、53%の大学が、大学の単位取得を目指す高校生のために Dual Enrollment プログラムあるいは Dual Enrollment プログラム外のコースを提供した。このうち Dual Enrollment プログラムとして提供した大学は 46%、Dual Enrollment プログラム外のコースを提供した大学は 28%であった。

2002-03 年では、57%の大学が、大学の単位取得を目指す高校生のために Dual Enrollment プログラムあるいは Dual Enrollment プログラム外のコースを提供した。このうち Dual Enrollment プログラムと

して提供した大学は 48%、Dual Enrollment プログラム外のコースを提供した大学は 31%であった。

上記の 2 つのデータの比較から、Dual Enrollment プログラムを提供する大学の割合は減少していることがわかる。しかし、このプログラムへの参加者を調べてみると、大幅に増えていることがわかった。Dual Enrollment プログラムとして大学の単位を取得できるコースを選択した高校生は、2002-03 年ではおよそ 680,000 人であったが、2010-11 年にはおよそ 1,277,100 人であった。

② Dual Credit, AP, IB

NCES の Dual Credit コース（高校の単位取得と同時に大学の単位も取得できるコース）に関する 2 つの資料（2013 年 2 月発行の Dual Credit and Exam-Based Courses in U.S. Public High Schools: 2010-11 と、2005 年 4 月発行の Dual Credit and Exam-Based Courses in U.S. Public High Schools: 2002-03）についても比較してみた。

2010-11 学年度に、82%の高校が Dual Credit コースに登録している生徒がいると回答している。2002-03 学年度では、Dual Credit コースの登録者がいる高校は 72%であった。

Advanced Placement (AP) と International Baccalaureate (IB) のコース（プログラム）は、大学レベルの内容を学ぶコースで、コース修了後の統一テストの成績により合否が決められることもあり、Exam-Based Course と呼ばれている。資料によると、2010-11 学年度には 69%の高校が AP か IB のコースに登録している生徒がいると答えている。2002-03 学年度では AP コース登録者のいる高校は 67%、IB コース登録者のいる高校は 3%であった。AP と IB コースを提供している学校の割合は増えてはいないが、これらのコー

スに参加し、受検する生徒は確実に増えている。

AP に関しては年次報告書が発行されているので、毎年の各教科コースの受験者数や成績が把握できる。例えば、The 9th Annual AP Report to the Nation (February 13, 2013) によると、2011-2012 年に高校在籍中に AP の試験を受けた卒業生は 954,070 人であり、それらの卒業生で、3 以上の評定（1～5。評定の最高は 5）を得た者は 573,472 人であった。教科で 3 以上の成績であれば大学の単位としてカウントされる可能性が高い。2001-2002 年の受験者数は 471,404 人、3 以上の評定を得た者は 305,098 人であった。このデータから AP の受験者数及び大学の単位取得者が大幅に増加していることが見て取れる。

IB についても The IB Diploma Programme Statistical Bulletin や IB のサイト (<http://www.ibo.org/>) により、受験者数や受験者の成績が把握できる。現段階の IB のサイトの情報によると、Diploma Programme を導入している学校は、全世界で 2,424 校（2008 年には 1,770 校であった）ある。国別では米国が最も多く、796 校である。AP と比べると IB は規模がかなり小さいが、大学レベルの内容で大学の単位として認めている大学も多いこともあり、これからも注目されていくものと思われる。

(2) ミシガン州の高大接続プログラム

高校生が大学レベルの学習に挑戦することで、大学の単位を取得できるようにするプログラムはミシガン州でも提供されている。ミシガン州で提供しているプログラムは、IB、AP、州認定キャリアおよび技術教育 (CTE) — テックプレップ接続プログラム、Concurrent Enrollment、Dual Enrollment、

Early/Middle College である。この中から IB、AP、Concurrent Enrollment、Dual Enrollment、Early/Middle College の参加者についていくつかの資料に基づき推測してみた。

1) ミシガン州では、26 校が IB の Diploma Programme に参加している。参加人数は、11・12 学年生あわせて 3,000 名前後が IB プログラムに参加しているものと思われる。

2) AP Report to the Nation (2013) によると、ミシガン州の 101,304 人の 2012 年卒業生のうち 26,822 人が AP を受験した (受験率は 26.5%)。このうち、大学の単位が与えられる可能性がある 3 以上 (5 段階評価で) の成績を得た生徒は 17,262 人であった。

3) Concurrent Enrollment と Dual Enrollment の違いは実施場所である。ミシガン州では、Concurrent Enrollment は高校で大学レベルのコースを受講できるようにしたプログラムであり、大学のキャンパスあるいはオンラインで受講するものを Dual Enrollment と呼んでいる。コースへの参加者数はデータが公開されていないので不明である。

4) ミシガン州での Early/Middle College は、2011-2012 年度では 17 校あり、1,993 人が学んでいる。この学校のプログラムでは、5 年間で 2 年制大学を卒業して得られる学位である准学士号の取得が可能である。

(3) Dual Enrollment への参加資格

ほとんどの高校は、Dual Enrollment コースに参加する生徒にはある程度以上の学力を求めているの。ミシガン州では、それぞれのテストにおいて次に示した得点以上の成績をあげた者に参加資格を与えている。()内に示したのは、各テストの得点の幅 (Score Range) である。

テスト	教科等内容	参加資格最低得点
ACT (1-36)	Mathematics	22
	Reading	21
	Science	24
	English	18
COMPASS (0-100)	Mathematics	52
	Reading	88
	English	77
MME (950-1250)	Reading	1108
	Writing	1100
	Mathematics	1116
	Science	1126
	Social Studies	1129
PSAT (20-80)	Reading	42
	Writing	41
	Mathematics	44
SAT (200-800)	Reading	500
	Writing	500
	Mathematics	500

(4) プログラムの質の保証

コースへの参加は SAT や GPA などの成績により大学レベルの内容について行ける生徒のみが対象になっていること。また、生徒が参加するこれらのコースはコミュニティ・カレッジや 4 年制大学のコースであり、高校生用にレベルを下げたものではないこと。これらが質の保証の根拠であると主張する関係者がいるが、コースにもいろいろあり、必ずしも質の保証になっていないと主張する者もいて、プログラムの質の保証については大きな課題として残る。そこで、この研究ではプログラムの質を保証する取組として最近注目を浴びている NACEP の活動を調べてみた。

NACEP のプログラム認定

National Alliance of Concurrent Enrollment Partnerships (NACEP) は Concurrent Enrollment を支援し発展させることを目的とした専門団体で、全米での Concurrent Enrollment (Dual Enrollment、Dual Credit) コースの増加に対応して 1999 年に設立された。カリキュラム、教授陣、学生、アセスメント、およびプログラム評価に

ついでに基準を提供することによって、Concurrent Enrollment による授業の質を保証することをめざしている。NACEP は Concurrent Enrollment とは「大学が認めた高校教師の指導による大学の単位が得られるコースを高校生が受講できる機会を提供する」ものであると定義している。

2004 年に最初の 4 つの併行登録プログラムが NACEP によって認定された。2009 年には 47 団体が認定を受け、現在（2013 年 4 月 26 日現在）は、89 の団体（Concurrent Enrollment パートナシップ）が NACEP の認定を受けている。毎年全米規模の NACEP 主催の研究会があるが、シアトル市で開催された 2012 National Conference には全米から 500 名を超える高校教師、大学教官、行政官、研究者が集まった。

(5) 今後の課題

AP コースはほとんどの高校で提供されるようになっているが、地方の高校の中には AP コースが提供されていなかったり AP コースの種類が限られていたりすることがある。このハンディを埋めるべくオンラインによる AP コースの配信がはじまっている。AP コースに限らず、今後、オンラインによる Dual Credit コースについても提供されるようになると思われる。そこで、オンラインコースは face to face（対面式）による受講と比べて違いが生じるのか、あるいはどのようなオンラインによるコースの提供方法が効果をあげるのか調査する必要がある。

単位の質についてはさらに検討を加える必要がある。College Readiness の面から大学レベルで求められる質について考察が求められる。EPIC の創設者である David Conley 氏は、カレッジへの準備ができていること（College Readiness）に関わる次の 4 つの

主な構成要素を指摘している。

- 1) 重要な認知方略（key cognitive strategies）
- 2) 学問的知識とスキル（academic knowledge and skills）
- 3) 学術的行動（academic behaviors）
- 4) 状況に応じたスキルと状況認識（contextual skills and awareness）

Conley 氏の他にも College Readiness についてはいくつかの考察がなされているので、それらを参考に大学の単位はいかなるものであるべきかを明らかにしたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔その他〕

河合 久（2012）「新指導要領に対応した高大連携の在り方-高大連携の新展開-」（平成 24 年 11 月 8 日 平成 24 年度北海道高大連携フォーラム・基調講演）

河合 久（2013）「資料：高等学校で大学の単位を取得するには（ミシガン州の例）」（PP. 47-51、平成 25 年 3 月 教育課程の編成に関する基礎的研究 報告書 4、国立教育政策研究所）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 久 (KAWAI HISASHI)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・総括研究官
研究者番号：30214589

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし